他者意識と受信絵文字量が送信絵文字量に及ぼす影響

○野崎浩成¹・多鹿秀継²

(¹愛知教育大学教育学部・²神戸親和女子大学発達教育学部)

キーワード: 他者意識, 絵文字使用量, 携帯メール

The relationship between other-consciousness and using pictographs in Japanese mobile phones

Hironari NOZAKI¹ and Hidetsugu TAJIKA²

(¹Aichi University of Education, ²Kobe Shinwa Women's University)

Key words: other-consciousness, pictographs, email on the mobile phone

目 的

友人と携帯電話でのメールのやり取りを行うとき、受信メールの絵文字量(受信絵文字量)に自分の送信メールの絵文字量(送信絵文字量)を合わせようとするのだろうかという疑問がある。このような疑問から、携帯電話でのメールのやり取りにおける受信絵文字量が、受け手の送信絵文字量に影響を与えるのかについて明らかにすることが本研究の目的である。足立ほか(2003)・浜田(2007)は、送信絵文字量に性差があると指摘している。しかし、受信絵文字量と送信絵文字量の関連について研究したものは見られなかったため、本研究で調査した。なお、受信絵文字量に目を向けやすい人ほど送信絵文字量に変化があると考えられるため、他人への意識の向けやすさを測定する他者意識尺度(辻 1993)を使用することにした。また、本研究では、同性の友人とのメールのやり取りで、ポジティブなメール内容についてのみ検証した。

方 法

調査対象 愛知県下の大学生 49 名(男性 14 名、女性 34 名、無回答 1 名)を対象に調査を行った。欠損値を含むデータを除外した有効回答者数は 45 名(男性 13 名、女性 32 名)であった。

調査紙 調査紙では、絵文字使用量、受信メールの中で好印象であったもの、普段受信メールの絵文字使用量を気にするか、などを質問した。絵文字使用量については、普段の送信絵文字量、具体的な受信メールに対しての送信絵文字量について質問した。なお、具体的な受信メールは、メール文の内容は同じにし、絵文字量を多い、少ない、全くないと変化させて提示した。また、具体的な送信メールは、絵文字量を変化させた送信メールを 5 パターン用意し、その 5 つの中から自分が送るものを 1 つ選択してもらった。他者意識尺度(辻 1993)は、尺度Ⅰ「内的他者意識」、尺度Ⅱ「外的他者意識」、尺度Ⅲ「空想的他者意識」の 3 つの下位尺度から構成される。

手続き 2009 年 7 月中旬に実施した。教室内で調査対象者に調査紙を配布し、一斉に回答してもらった。時間制限は設けず、回答が終わった人から提出してもらった。

結果と考察

受信絵文字量と送信絵文字量の分析 表 1 では、受信絵文字量が送信絵文字量に影響を与えるかを分析した。表 1 で、受信絵文字量が「無」の場合、送信絵文字量の「多」いメールを選択する人数は 14 名(31.1%)、「少」ない送信メールを選択した人数は 31 名(68.9%)であり、この人数の偏りは有意であった ($\chi^2(1)=6.42, p<.05$)。このことから、受信絵文字量が少なくなることによって送信絵文字量が少なくなることが分かった。したがって、受信絵文字量が増えることによって送信絵文字量も変化するということが明らかとなった。

性差に関する分析 表 2 には、表 1 の人数を男女別に分けて集計した数を示した。女性(表 2 右側)については、受信絵文字量を減らす(「多」「少」「無」へと変化させる)ことによって、送信絵文字量「少」の人数が増加していく。一方、

表 1 受信絵文字量の変化と送信絵文字量の推移 (人数)

送信絵文字量	受信絵文字量		
	男性と女性の合計人数		
	多	少	無
多	29	27	14
少	16	18	31

表 2 表 1 の男女別の人数の内訳 (人数)

送信絵文字量	男性の人数			女性の人数		
	受信絵文字量			受信絵文字量		
	多	少	無	多	少	無
多	2	3	1	27	24	13
少	11	10	12	5	8	19

男性(表 2 左側)は、受信絵文字量を減らしても送信絵文字量「少」の人数はほとんど変化しない。したがって、男性よりも女性の方が受信絵文字量の変化が送信絵文字量に強い影響を与えることが示された。また、男性よりも女性の方が送信絵文字量の多いメールを選択する傾向が見られた。これは、足立ほか(2003)・浜田(2007)の結果と一致する。さらに、他者意識尺度の得点の性差について有意差は見られなかった(両側検定: $t(43)=.844, p>.05$)。また、他者意識尺度の下位尺度間の強い相関は見られなかった。これらは辻(1993)と一致する。

他者意識と受信絵文字量を気にするかについての分析 同性の友人からの受信絵文字量を気にする人の方が気にしない人よりも他者意識尺度が有意に高いことが分かった(両側検定: $t(43)=2.782, p<.01$)。次に 3 つの下位尺度ごとに分析した。内的他者意識(尺度Ⅰ)は、受信絵文字量を気にする人の方が気にしない人よりも有意に高いことが示された(両側検定: $t(43)=2.824, p<.01$)。一方、外的他者意識(尺度Ⅱ)は有意差が見られなかった(両側検定: $t(43)=.381, p>.05$)。空想的他者意識(尺度Ⅲ)については、受信絵文字量を気にする人の方が気にしない人よりも有意に高いことが分かった(両側検定: $t(43)=2.711, p<.05$)。これらの結果から、他者意識の高い人ほど、受信絵文字量を気にする傾向にあるが、他者の外面、つまり服装や体型に意識や関心を向ける外的他者意識の高低は、受信絵文字量を気にするかどうかに関係がないと言える。これはメールでは姿が見えず、声も聞くことができないことによって、他者の外面に意識や関心を向ける必要がないのだと思われる。一方、他者の気持ちや感情などの内面情報に注意を向ける内的他者意識と、他者について考えたり、空想をめぐらせたりする空想的他者意識が受信絵文字量を気にするかに関係していることが明らかになった。これは、メールでのやり取りは文字情報でのやり取りのため、誤解などが生じないように相手の感情、状況などの内面情報へ注意を向けるようにしているためではないかと考えられる。また、メールの相手の姿や声などを感じ取ることができないため、相手のことを空想しながらメールをやり取りしていることが空想的他者意識で有意差が見られた原因の 1 つであると考えられる。

附記 本研究の一部は、2009 年度愛知教育大学卒業論文「受信絵文字量の変化による送信絵文字量の変化について」(池内史恵)に基づくものである。また、科学研究費補助金基盤研究(B)の援助を得た。